

日米文化教育交流会議(カルコン)第26回日米合同会議における
内閣総理大臣メッセージ(案)

1961年に当時の池田総理とケネディ大統領の間の合意により日米文化教育会議(カルコン)が設立されてから、半世紀以上が経ちました。来年、戦後70年を迎えるこの時期に、ケネディ大統領の御息女でもあるキャロライン・ケネディ駐日米大使がこの会議に出席されること、また、私の父である故安倍晋太郎が設立に尽力した国際交流基金日米センターが、カルコン日本側事務局としてこの会議を支えていることに、深い感慨を覚えます。そして、設立以来、文化・教育の視点から日米関係を議論し、多様で豊かな知見を両国政府及び社会に提供してきたカルコン及びその両国関係者の方々に心からの敬意を表したいと思えます。

両国民の堅い絆と価値観の共有は、日米両国のグローバル・パートナーシップの基盤を成すものです。これは、長きにわたって培われた日米間の幅広い人的交流により支えられてきました。カルコンも設立以来その重要性を認識し、それぞれの時代背景の中で取り組むべき喫緊の課題を官民に対して提起してきました。特に、前回合同会議後これまでの2年にわたっては、教育交流の強化を中心に集中的な議論が行われたと承知しています。本年4月にオバマ大統領が訪日された際に発出した共同声明において、私はオバマ大統領と、カルコンが打ち出した「2020年までに双方向の学生交流を2倍にする」目標を確認しました。日本政府としては、この目標の達成のため、今後とも引き続き様々な取組を進めてまいります。

今回の会合においては、教育、芸術交流やカルコンが今後取り組むべき課題等を中心に議論される予定であると伺っています。カルコンが今後も時代と共に変化する両国間の課題に対し、文化・教育交流という視点から絶えず有益な知見を提供し続けていくことを願うとともに、グローバルな課題に両国が協力して立ち向かうための基盤を支える一つの柱としての役割を担っていくことを期待しています。

2014年11月18日

日本国内閣総理大臣 安倍晋三